



ってきました。

書齋兼食堂兼リビングルーム的な部屋に通されてといえは洒落ているようだけれども、打ちわった話か、和風の板の間に洋風の道具立て、そこから一面古新聞やら雑誌、得体の知れない物体が雑然と積みあげられて、住人の性格が出ている感じですね。パーゲンで千円ぐらいのフランス製パイプにボンド・ストリートをつめながら、時々立消えの煙草も氣にしないでの対話が始まったのです。

「……といった主旨でぜひ、御経験を生かした診断をお願いしたいわけでした」と私。

「そりゃ無理ですな、おタクのレク学会でも仲々結論が出たらんというのに、それにこうレクばやりでリーダーが増えてきると、中にはいかげんなものも出ると言うだからねえ。一、二度講習を受けた程度で万事のみこみ顔で指導者ヅラをして、メンバーがシラケておると自分の技倆の未熟を棚に上げて、やる気がない集団でしようがないとか、基本もつかまんで目新しいものを次々に追うだけとか、まあ量が多くなれば質が低下する——とはダウンの法則にあるがね……」

「ですから、その質を高めるためにも、当面している困難に果敢に取り組んでいる、リーダーの質問やら悩みごととに指針と勇気を与えて上げて

いたいただきたいのですよ」（ここで頭張らないと交渉担当の名がすたる）

「君は、うまいこと言うネ、それならこうしよう、僕で手に余ることは、君なり編集部なりが資料集めや、人材を確保してくれませんかね」

「そりゃあもう、私でもできることなら勉強にもなることですし、お手伝いは喜んでさせていただきますです」（読者のタメですからなんだって受け入れちゃおうのだ）

ドクター・エキケン談議

問「さっそくですが日本のレクの印象と、諸外国の文献などではいのがありましたら御紹介をひとつ。」

博士「お金をかける遊びがレジャーで、お金をかけないのがレクと考えているような、レクの二重構造的認識があるようですね。いつごろからこうなってきたのか面白い研究テーマであると思うんだが、非常に真面目にレクと取組んでいる層があるかと思うと、全然、無関心、無縁な層が存在しています。それにバイタリティーがあるというか、流行に敏感というか、集団的行動が得意なよう、ゴルフといえはたちまちゴルフに殺到するのが不可解です。個人々々が自分の考えで自分に合ったものを選ぶということが不得手なんでしょうか、過去にもお

イセ詣り、ええじゃないか」のような現象もあったようですから、民族性でしょうか。明治以来、欧米に追いつけ」でどしどし文化を取り入れて消化してしまおう力には驚異と尊敬をはらっています、自分の国のものも大切にしたらよいと思いますよ。

文献にしても一七一三年にドクター・エキケンが独得のレク論を



書いています。」

「ドクター・エキケンといいますか？」

博士「知りませんか？ プロフェッサーでもあったエキケン・カイパーラのヨージョークン……」

「ああ貝原益軒の養生訓ですか。あれはその……、つまり二〇歳は四日に一度、三十歳は八日に一度といった具合に、その一房事、つ

まりセックスの手引書でした。」

博士「それはほんの一部分で全体は保健の倫理と方法が細かく述べてあります。その中に八養生の術は先、心気を養うべし、心を和にし気を平らかにし、うれしい思いをすくなく心を苦しめず気をそこなわず。手足をうごかし労働して血気をめぐらし、飲食を消化せしむべし、是養生の要道なり」と心身一体の健康法を述べていますし、

八楽しみは是人のむまれ付たる天地の生理なり。樂しまずして天地の道理にそむくべからず。つねに道をもつて欲を制して樂を失なふべからず、樂を失なわざるは養生の本也」と本質をついたレク論を展開しています。まだいろいろ言っておりませんが、いざ折にふれて考えてみましょう。」

といったぐあい、これから小はレク・プログラムから大はレク・エリアの構想でも、よろず相談にに応じてくれることになり、どんな問題でも結構、どしどし質問難問を寄せてコシヤクな博士に一泡ふかせてください。

患者 大募集!

レクについての悩みごと、難病・奇病のたぐい、何でもズバリ診断します。編集部へ電話か手紙でどうぞ。日曜日休診。